

第6章

押さえておきたい 「取引の基本」

- 001 注文の出し方と決済の方法を理解しよう 72
- 002 最も重要な「指値注文」の仕組みを理解しよう 73
- 003 予想した方向と逆に動いても保険をかけておけば安心 74
- 004 チャンスを逃さず、想定外の損失も避ける方法【1】 75
- 005 チャンスを逃さず、想定外の損失も避ける方法【2】 76
- 006 取り損ないを避ける「魔法」の注文方法 77
- 007 基本的なトレードスタンスについて理解しよう 78
- 008 なぜ、トレードスタンスを守り続けたいといけないの? 79
- 009 投資家の手間を省くシステムトレード(自動売買) 80

第6章

押さえておきたい「取引の基本」

001

注文の出し方と決済の方法を
理解しよう

ちょっと早いかもしれませんが、先に注文の出し方と決済の方法を解説しておきましょう。FXの魅力や取引をするために、いろいろな角度から必要な知識を身に付けていただきますが、やってみたいと思ったら、FX会社に口座を開設して、デモトレードで慣れていくと理解が深まります。

何ごとも、興味津々のときが始め時です。そのほうが身に付きやすいし、理解も深まるからです。第6章では、注文の出し方や決済の方法を解説しましょう。すでに、FXで儲ける仕組みについては解説しましたが、一口に買いや売りといっても、注文の出し方にはいくつかの方法があります。

▶▶ 基本中の基本の注文方法は2種類

新規に買いや売りとしたとき、真っ先にくるのが「**成行注文**」です。これは、相場の世界で基本中の基本といわれています。もう1つの基本的な注文方法が「**指値注文**」です。まず、「成行注文」から紹介しましょう。

「**成行注文**」とは、いくらでも良いから必ず**買いたい**、**売りたい**、**決済したい**というときに使います。少し荒っぽい感じがするかもしれませんね。

しかし、**相場の世界は買いたいとき、売りたいとき、決済したいときに、注文したとおりに売買が成立することが何よりも重要**です。**売買が成立することを「約定」と**いいます。



ただし、約定を優先するからといって、取引量の少ない通貨ペアや相場の動きが荒いときなどに使うのはお薦めできません。ときに予想とかけ離れた値段で約定してしまうこともあるからです。つまり、このチャンスはどうしても逃したくないというときに「成行注文」を使うと効果的ですが、それ以外では、次の「指値注文」を中心に売買する習慣を付けてください。

▶▶ 指値注文の方法を身に付けると注文方法の幅が広がる

「この値段で買いたい、売りたい、このくらい儲かったら決済したい」と具体的な値段を決めて、あらかじめ注文を出す方法が「指値注文」です。

何しろ、ほとんどのFX投資家は日中、仕事や家事に追われていますから、相場を見続けることは難しいはずで。そこで、「指値注文」を利用すれば、その値段になったら自動的に買ったり、売ったり、決済したりしてくれるので時間的な制約を受けません。そして、これをちょっと応用すると、次に紹介する様々な投資家の注文ニーズを満たしてくれます。

第6章 押さえておきたい「取引の基本」

002

最も重要な「指値注文」の
仕組みを理解しよう

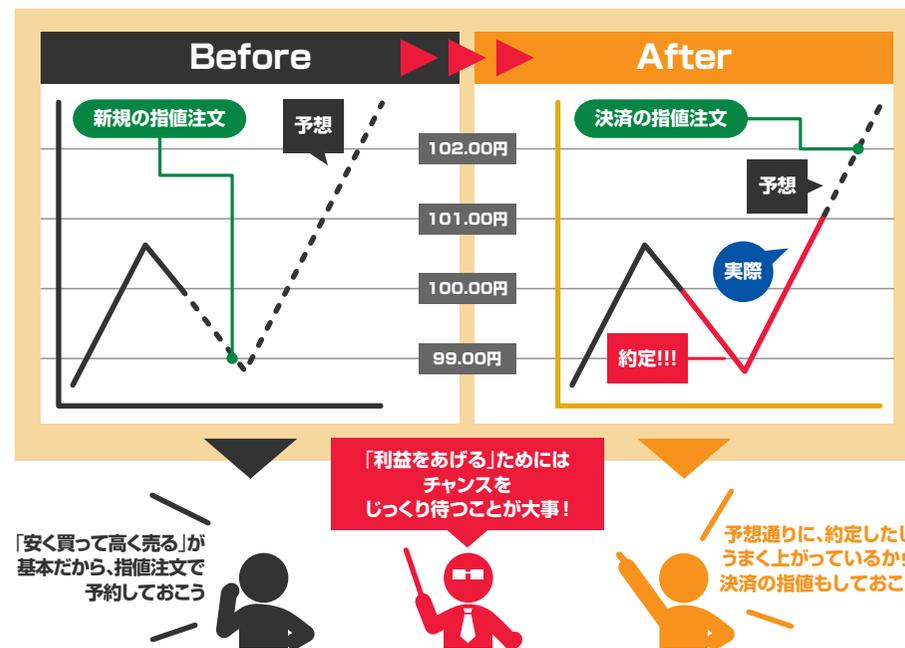
前項では、「注文方法は基本的に2つの方法があり、指値注文には様々な応用が利く」ことを紹介しました。そこで今回は、指値注文の仕組みについて具体的に理解を深めていきましょう。指値注文を応用するためにも、基本をしっかり押さえてください。

「この値段で買いたい、売りたい、このくらいの利益になったら決済したい」と具体的な値段を決めて注文を出すといっても、初めての方はピンとこないかもしれません。そこで、具体的に仕組みを解説しましょう。

▶▶ 指値注文を「予約」と考えると分かりやすい

たとえば、いまの時点でドル／円の値段が100.00円としましょう。どうも、これから上がりそうな気がするとき、少しでも安く買いたいと投資家は考えます。何でも安く買えたほうがお得感がありますから……。

通常、ドル／円が1日で5円も10円も動くことはありませんから、いまより1円安いレートなら買っても良いかなと思い、99.00円で買い注文を出したとします。何しろ、今より1.00円も安い値段ですから、「スグに約定!」というわけにはいきません。朝の出勤前に自宅のパソコンで指値注文を出しておいたり、通勤途中の電車の中で経済新聞を読んでいたら、「円安の可能性～」の見出しが飛び込んできて、早速、スマホから指値注



文を出すという具合です。

つまり、**指値注文**というのは「**注文の予約**」というわけです。あくまで「予約」ですから、99.00円にならないと約定しません。99.01円では駄目です。「予約」ができれば、相場を見続ける必要もなく、仕事や家事に集中できるもの。ただし、仕事中に為替レートが気になり、トイレに入ってケータイでのぞき見したり、我慢しきれずに成行注文に変更したりしてトレードしてしまう投資家もいるようです。

▶▶ 指値注文は「注文の期間」も決められる

指値注文は、いつまで注文を出し続けるかという期限を決めることができます。さすがに、1分単位というわけにはいきませんが、今日中とか、今週中といった感じです。×日×時までや無期限の設定ができるFX会社もあります。ただし、為替レートは刻一刻と変化するため、あまり長い期限で注文を出しておくのも考え物です。基本は1日と考えてください。

第6章

押さえておきたい「取引の基本」

003

予想した方向と逆に動いても
保険をかけておけば安心

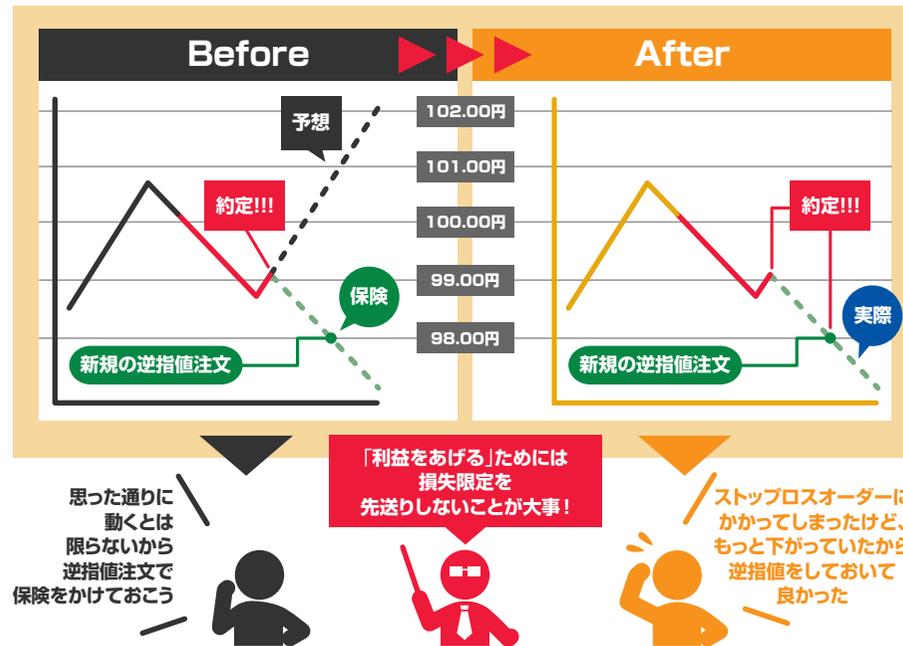
個人投資家は専業でトレードをしない限り、四六時中、相場に張り付いていることはできません。そのため、損失を限定することも忘れないようにしましょう。おかしな話に聞こえるかもしれませんが、大負けしないトレードこそ、投資家を常勝へと導いてくれるのです。

これから上がりそうなら買い、下がりそうなら売りと、成行注文や指値注文で約定して思い通りに相場が動いたら、利益を確保したいものです。ここでも指値注文が効果的です。

ちなみに、**新規で買うことを「買い建て」、売ることを「売り建て」と**いいます。**買い建てしたものを「買い建て玉」「買いポジション」、売り建てしたものを「売り建て玉」「売りポジション」と**いいます。逆に、**すでに持っている建て玉の利益を確定したり、損失を限定したりすることを「決済」と**いいます。FXは売りと買いを自由に行えるため混同しないように、「新規買い」に対して「決済売り」、「新規売り」に対して「決済買い」と対にした言葉を使います。なお、新規を「仕掛け」、決済を「手仕舞い」というときもありますので、好きな言葉を使うと良いでしょう。

▶▶ 予想した方向と逆の動きに備える

ところで、投資をすると利益をあげることはばかりを考えがちですが、そ



れだけではいけません。予想した方向と逆に動いたときの保険をかけておく必要があるからです。

要するに、上昇すると思って新規買いとしたのに、何の備えもしないまま下落してしまえば、想定外の損失を被ることになります。多くの投資家は損失を確定（限定）することを精神的に受け入れられず、損切りの決断を先送りしてしまうケースがあります。こうしたことは、損失がさらに拡大する恐れがあり、あまりにも危険です。

予想した方向と逆に動いたときは、一定以上の損失を被らないように、損失を限定する注文＝ストップロスオーダーを出しておくことが大事です。これが投資家自身のお金を守ることになります。**ストップロスオーダーには、「逆指値」という注文方法**を使います。たとえば、80.00円で新規買いとしたとき、逆指値は79.00円という感じです。逆指値をしておくことで、最大の損失は1.00円に限定することができます。「負けなトレードを心がける」、これが相場に勝つ秘訣でもあるのです。

第6章

押さえておきたい「取引の基本」

004

チャンスを逃さず、想定外の
損失も避ける方法【1】

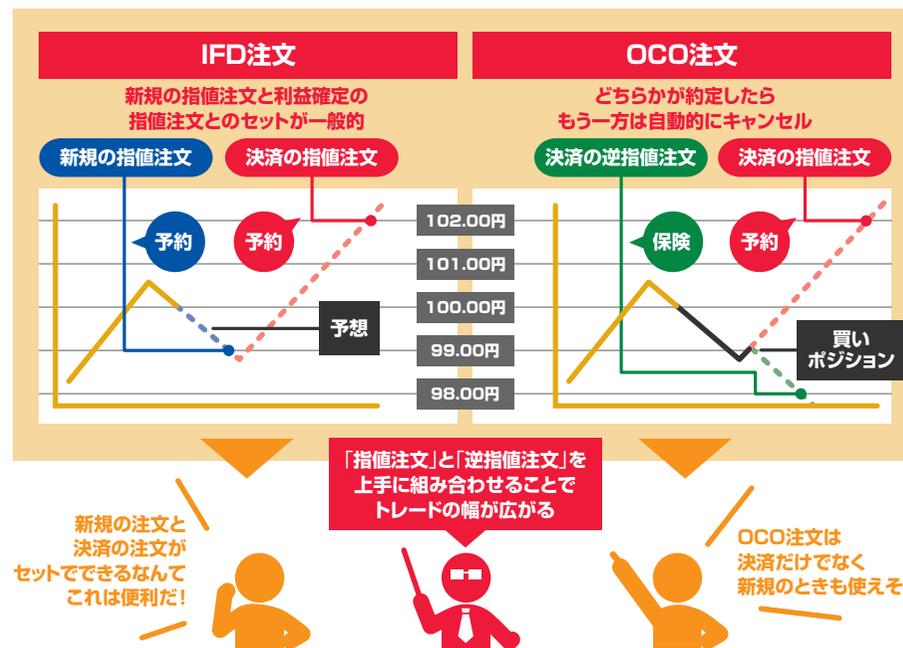
利益確定と損失限定。この2つを理解すれば、当然のことながら、両方の注文を同時に出して楽をしたいものです。できれば、「エントリーも！」と投資家の欲望は尽きません。でも、3つの注文をいろいろ組み合わせる方法があるので、この項と次の項で解説しましょう。

ここまで「成行注文」「指値注文」「逆指値注文」を解説しました。中でも、指値注文と逆指値注文を組み合わせると、チャンスを逃さず、想定外の損失を回避することができます。

ここでチャンスと一言で書いてしまいましたが、チャンスには2種類あります。新規でポジションを建てるときのチャンスと、一定の利益を確保できたときに着実に決済するチャンスです。

▶▶ 新規と利益確定の注文を同時に出して儲けの確率を上げる

たとえば、ドル／円が80.00円まで下がったら買いポジションを建て、81.00円まで上昇したら決済したいと考えたとしましょう。そういうときは、^{アイエフディー}「IFD注文」を使います。英語の「IF Done」の頭文字を取ったもので、「もし、新規の注文が約定した後に、指定の価格に達すれば決済します」という注文方法です。2つの注文を同時に出しておけば、予想通りに相場が動いてくれば、利益確定の確率は上がります。これなら、2つのチャ



ンスを逃さないようにできますね。

▶▶ どちらか一方が約定したら、もう一方をキャンセルする

次に、2つの注文を組み合わせる別の方法を紹介しましょう。新規でポジションを建てるときに、成行注文か普通の指値注文を使ったとします。

「IFD注文」の場合は、利益確定にスポットを当てた注文方法でしたが、こちらは、利益確定の指値注文と想定以上の損失を避けるための逆指値注文を同時に出す方法で、「^{オーシーオー}OCO注文」といいます。英語の「One Cancels the Other order」の頭文字を取ったもので、「どちらか一方の注文が約定すれば、もう一方の注文をキャンセルします」という意味です。

80.00円で新規買いとしたドル／円のポジションに対して、81.00円で利益確定の指値注文と、79.00円で損失を限定する逆指値注文を同時に出すわけですね。利益確定のチャンスを逃さず、想定外の動きに対して保険もかけることができます。指値注文と逆指値注文の応用で選択肢が増えますね。

第6章 押さえておきたい「取引の基本」

005

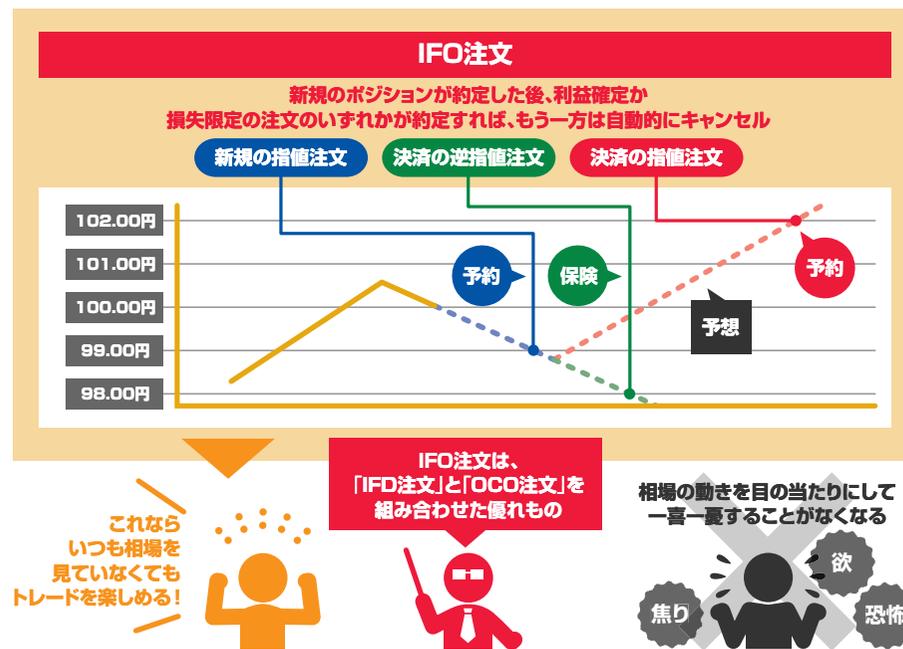
チャンスを逃さず、想定外の損失も避ける方法【2】

「相場を見ながらタイミング良く注文を出して、効率的に利益をあげたい」これが投資家の心理です。ところが、実際に利益が乗ってくると「もうちょっと利益を伸ばしたい」、損失を抱えれば「もう少し損が減ったら」と判断を先送りします。これが大敵。潔いトレードが「儲けのコツ」です。

IFD注文とOCO注文は便利な注文方法ですが、どちらにも欠点があります。IFD注文には損失を限定する注文がなく、OCO注文は新規でポジションを建てるときと、2つの決済注文がバラバラというところ。たとえば、仕事や家事でうっかり確認するのを忘れていたら、最初は思った方向に動いたのに、その後、逆の方向に動いてしまって儲けを取り逃がしてしまうばかりか、最終的に損失を抱えてしまうケースが考えられます。

▶▶ 新規建てから、利益と損失の確定までをセットで注文する

IFD注文とOCO注文をセットにしたのが「^{アイエフオー}IFO注文」。英語の「If done & One cancels the other order」の頭文字を取ったもので、「もし、新規の注文が約定した後に、指定の価格に達すれば決済します」という方法です。新規建てから始めて、利益確定と損失限定までの3つの注文（2つの指値と1つ逆指値）をあらかじめ同時に出すことができます。注文画面に切り替えると、自動的にIFO注文の画面が現れるように設定されている



FX会社もあるほどです。これには、3つの注文は常にセットで考え、取るべき利益を着実に手にし、必要以上の損失＝リスクを限定することで、健全なトレードを習慣付けてもらおうという目的があります。また、トレードに費やす時間的な面でも効率的です。

▶▶ IFO注文を習慣付けるために必要なこと

「新規建ての価格から始まって、利益確定と損失限定の値段まで、最初から予測するなんて無理な話では?」と感じるかもしれませんね。

価格の動きを予測するには、第7章のチャート分析を身に付ける必要があります。そういう意味で、チャート分析はFX投資家にとって、なくてはならないものです。もう1つ大事なことは、投資家は、相場を目の当たりにすると、「たくさん儲けたい（欲）けど、できるだけ損失は確定したくない（恐怖）」という心理に支配されます。欲と恐怖の心理に支配されないためには、IFO注文を習慣付けることが大切です。

第6章 押さえておきたい「取引の基本」

006

取り損ないを避ける「魔法」の注文方法

めまぐるしく変化する外国為替相場は、一方通行になることがよくあります。潔いトレードが「儲けのコツ」といっても、やはり大きなチャンスを逃したくありません。相場が一方通行になるとき、リスクを限定しながら利益をできるだけ追い求めることができる注文方法があれば便利ですね。

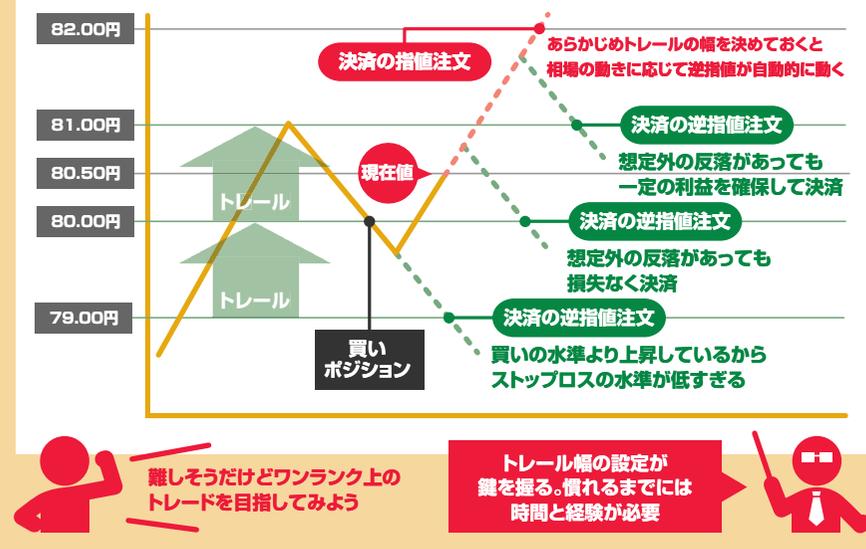
かなり便利な「IFO注文」を使いこなすと、新たな欲求が湧き上がってきます。たとえば、IFO注文を使って、ドル／円を80.00円で新規買い、利益確定の水準を81.00円、損失限定の水準を79.00円にしましょう。これでセット完了！ 明日の朝が楽しみです。ところが、朝起きて口座にログインしてみると「現在、あなたのポジションはありません」という表示。「儲かったかな？」と期待に胸を膨らませます。

確かに、予測どおりに80.00円で新規買いの注文は約定しています。その後も上昇していました。よく見ると、80.85円まで上昇した後に何かの原因で急落。78.85円まで下がった後に再び上昇して82.50円に到達しています。どうも、利益が確定される前に逆指値注文が執行されたようです。出勤前なのに、どっと疲れが出て意気消沈……。よくあるケースです。

▶▶トレール注文でワンランク上のトレードをマスター

「**トレール注文**」を使いこなせると、そんな悲しい目に遭うケースが

トレール注文(上昇時の例)



なり減ります。「トレール」には「獲物を追う」「だらだらと後をつける」という意味があります。つまり、**トレール注文とは、相場の動きに応じて、あらかじめ決めた値幅ずつ逆指値が自動的に動く注文方法**です。そのため、相場が予測通りに動けば、必要以上に損失を限定する必要はなくなります。

具体的にいうと、80.00円で新規買いとして80.50円まで順調に上昇すれば、当初設定した79.00円の逆指値ではリスクを取りすぎていることになります。ただし、上昇と同じ幅だけ逆指値が上がるような設定だと、ちょっとした下落で逆指値注文が執行されてしまいます。そのため、相場の動きに対してトレールの幅をどの程度にするかを投資家自身が決めなければなりません。ここが腕の見せ所です。

慣れるまでには多少の時間と経験が必要ですが、興味のある方は、トレール注文の使い方に挑戦してください。トレール注文の仕組みは、FX会社ごとに工夫が施されています。FX会社のマニュアルを見たり、問い合わせをしたりして、ワンランク上のトレードスキルを身に付けましょう。

第6章 押さえておきたい「取引の基本」

007

基本的なトレードスタンスについて理解しよう

どんなに知識を身に付けても、トレードのテクニックを知らなければ、無茶なトレードをしてしまうことになります。そういう意味で、トレードスタンスの特徴を知るとはとても大切ですし、利益をあげるためにはレバレッジと投資期間の関係をしっかり理解することが必要不可欠です。

様々な注文方法を使いこなして、取引（トレード）の精度を高めることはとても重要です。しかし、あまり縦横無尽に（都合良く）外国為替市場で立ち回ろうとするのは考え物。やはり、トレードスタンスを理解し、それを忠実に守り続けることが、結果的に儲けることへの近道になります。

トレードスタンスを決めるポイントは、大きく分けて2つあります。1つは「**トレードの期間**」、もう1つは「**相場の流れに乗るか、相場の勢いを重視するか**」です。「相場の流れや勢い」については、次章で解説するとして、ここでは、「トレードの期間」に着目したスタンスについて解説していきましょう。

▶▶FXで最も一般的な「スイングトレード」

トレードスタンスを期間別にみると、**1日のうちに売買を完結するデイトレード**、**1週間程度で売買を完結するスイングトレード**があげられます。そのほか、小刻みにトレードするスキャルピングという手法もあります

▶トレードスタンス

スキャルピング		デイトレード	
トレード回数	非常に多い(数十~100回/日)	トレード回数	多い(数回/日)
目標利益	非常に小さい(数pips/回)	目標利益	小さい(十数~数十pips/回)
レバレッジ	かなり高い(20~25倍)	レバレッジ	高い(10~20倍)
保有期間	とても短い(数分~数十分)	保有期間	短い(数時間)
投資家像	専業	投資家像	専業、ベテラン
スイングトレード		中長期保有	
トレード回数	ふつう(1~数回/週)	トレード回数	とても少ない(数回/年)
目標利益	ふつう(100~200pips/回)	目標利益	とても大きい(数百pips/回)
レバレッジ	低い(3~5倍)	レバレッジ	とても低い(1~2倍)
保有期間	ふつう(数時間~数日)	保有期間	とても長い(1~数カ月)
投資家像	入門・初心者、一般	投資家像	入門・初心者、一般

トレードスタンスごとの特徴を理解し、ライフスタイルや性格に合わせて選ぶことが大事

が、かなり慣れないと難しいでしょう。スキャルピングは、高速回転のトレードで狭い値幅の利益を補うという考え方からきています。また、非常に高いレバレッジでトレードするのも特徴です。しかし、個人で取引するときの最大レバレッジが25倍まで引き下げられ、そのメリットは小さくなりました。さらに、1日に多いと数十~100回程度のトレードをするには、仕事や家事を一切しない専業トレーダーになる必要もあります。

一方、非常に長期間の保有でスワップを狙うトレードもあります。しかし、各国の政策金利の差が小さくなる傾向にあるときは、少なくともレバレッジを利かせてトレードするのであれば、あまりメリットはありません。高レバレッジ取引は、短期保有が原則だからです。政策金利が拡大していく経済環境では、売買による利益とスワップを受け取ることで、大きな利益を期待することができますが、スワップはあくまで「オマケ」程度に考えておくべきでしょう。いずれにしても、**自分の性格とライフスタイル、相場状況を理解してトレードスタンスを決めることが重要**です。

第6章

押さえておきたい「取引の基本」

008

なぜ、トレードスタンスを
守り続けられないといけないの？

「億単位の利益をあげた」「一生使い切れないほどのお金を稼いだ」という投資家に対して、相場を縦横無尽に渡り歩くイメージを持っていませんか？ とんでもありません。長期的に勝ち続けて大金を手にした投資家ほど、一定のリズムを守り、コツコツとトレードしているものです。

なぜ、トレードスタンスを一定にして、それを守り続けられないといけないのでしょうか。人は多くのお金を手に入れたいという欲求があります。そのためにFXをするわけです。つまり、利益をあげられるなら1回のトレードでできるだけたくさん稼ぎたいと思うのが人の心理です。

しかし、これがくせ者。たまたま買ったドル/円が大きく値上がりして予想以上の利益を手にしたとします。そうなると、大きな利益を狙うのが当たり前になり、長くポジションを持つようになります。それまでは、小さくても確実に利益を取ろうというスタンスだったにもかかわらず、です。

▶▶FXで儲けるためにはリズムが大切

しかし、良いことは長続きしません。ポジションを長く持てば持つほど、損失が大きくなると、また元の小さい利益を確実に狙うというスタンスに逆戻りします。いうなれば、相場に翻弄されているのですが、成功できない投資家はそれに気付かないことが多いのが実情です。

▶勝ち続ける投資家の真の姿



- 儲けのチャンスは1回ではない
- ここ一番の勝負をしない
- 負けを深く認めて損切りをする
- 保有期間やレバレッジを変えない
- スリルを味わおうとしない
- 勝ちパターンを身に付ける
- 勝てる相場展開を見つける
- 情報過多に陥らない
- 他人のトレードスタイルをつまみ食いはしない

他人は他人 自分は自分

▶負ける投資家が陥りやすい罠

うまくやれば大儲けかも！

市場を縦横無尽に渡り歩く

臨機応変のトレード！

大きな利益を手にする！

億単位のお金を稼いだ！

プロの華々しい話 武勇伝！

ハイリスクハイリターン！

他人の成功物語は、それがすべてとは限らない。一時的に大成功しても、有頂天になれば、奈落の底に。地道にコツコツが勝利への近道

自分にあったトレードスタンスが決まるまでは試行錯誤も必要ですが、これで行こう！と決めたら、後はそれを続けることです。もう少し持っていれば儲かったのに、と悔しい思いをすることもあられるでしょう。しかし、長い目で見ると、その時々で保有期間を長くしたり短くしたりすることはデメリットのほうが大きいのです。

書店などで数億円のお金を稼いだトレーダーの本を目にしますが、FXで巨額のお金を手にし、有名になった後もそれが続いている人のほとんどは、いつも同じスタンスを貫いています。利益を確定した後に値上がりしても、損失を限定した後に元のレートに戻っても、それを悔やんだりはありません。「チャンスは常にある」ことを肝に銘じているからです。

そして、トレードをスリルあるものとは決して考えていません。優先するのは利益なのか、スリルなのか、投資家の腹ひとつです。儲けよう、儲けたいと思って参加する以上、それを貫き、**トレードスタンスを一定に保つことの大切さ**をよく覚えておいてください。

第6章 押さえておきたい「取引の基本」

009

投資家の手間を省く システムトレード(自動売買)

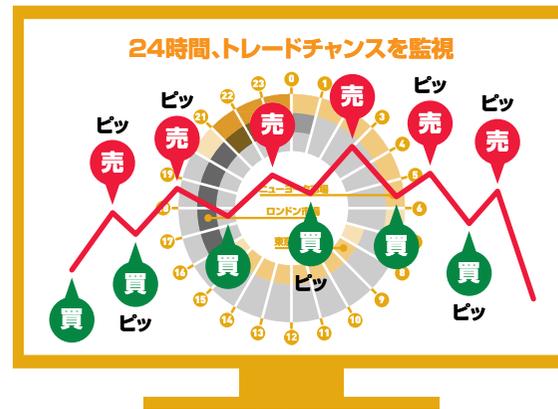
外国為替市場は24時間眠りません。しかし、人間は生身。市場が動いているときに四六時中、監視していることはできません。そして、自分が見ていないときに限ってチャンスが到来していることも……。コンピューターシステムにトレードを任せてしまう方法もあるんです。

トレードの手法には、これまで解説したのとは別次元のものがあります。それがシステムトレード（自動売買）です。日本の個人投資家にはあまり馴染みがなく、ほとんどの入門者はシステムトレードの存在を知らずにいます。しかし、欧米では珍しいものではありません。それどころか、売買をシステム任せにするかは別にして、それが発するシグナルに沿ってトレードすることは日常的に行われています。

システムトレードとは、次章で解説する「チャート分析」という手法をベースに、投資家がそれぞれトレードルールを決めて、それをコンピューター（システム）にトレードさせる手法です。特に外国為替市場の場合は、24時間眠らずに世界を駆け巡ります。つまり、チャンスがいつ訪れるか、利益を手にするタイミングがいつなのかは分かりません。

システムトレードなら、時間的な制約は皆無ですし、「もっと儲けたい」「これ以上損失を膨らませたくない」といった心の葛藤がありません。何しろ、コンピューターがあらかじめ決めたとおりにトレードしてくれるの

▶システムトレード



システムトレードを実践するプロセス

- チャート分析を
しっかり身に付ける
- ↓
- トレードルールを考える
- ↓
- 過去の相場データで
ルールを検証する
- ↓
- 実際の相場で試してみる

**システム
トレードの
メリット**

相場の動きに
一喜一憂する
ことがなくなる

システムには
欲がない
↓
スタンスが一定

トレードに割く
時間を有効活用
できる



ですから、心の葛藤もなく、忙しい、眠い、売りと買いを間違えてしまったということはありません。

▶▶ファンダメンタルズ分析も不要

システムトレードを採用すれば、経済指標の発表に一喜一憂する必要もなくなります。こう書くと、まるで夢のシステムに聞こえるかもしれませんが、その代わりといっは何ですが、先ほど書いたように、「チャート分析」を徹底的に研究して、テストを繰り返さなければなりません。これは、想像以上に地道な作業です。しかし、そういうことが向いている人も多いはず。どうしても、**相場の動きに一喜一憂してしまいそうという方は、システムトレードに目標を定めるのも一案**かもしれません。

あえてシステムトレードを紹介しているのは、「最初が肝心」だからです。**何事も、成功の秘訣はゴール（目標）を決めて邁進すれば、最短距離で到達**できます。興味のある方は、チャート分析に重点を置きましょう。